

トヨタケ工業株式会社

愛知県豊田市

人材育成
ものづくり

地域活動「OPEN INABU」の推進とダイバーシティ・ネイティブな人材活用による社内への好循環

1964年、愛知県稲武町の過疎化対策として工場誘致を受け、愛知県山間僻地進出第一号として設立。アパレル企業として培ってきた縫製技術を活かし、自動車のシートカバーメーカーに業種転換。以来、社内での柔軟な働き方や地域全体の魅力向上活動「OPEN INABU」を推進、地元女性や域内外の若者の雇用を増やし成長を続ける。研修やQCサークル活動の充実、デジタル化へのチャレンジなどにより、多様化する消費者ニーズを背景とした多品種小ロット生産による高品質な製品を世界に送り出している。

所在地 愛知県豊田市桑原町中山形28番地
電話/FAX 0565-82-2501/0565-82-3129
URL <http://www.toyotake-kogyo.co.jp/>
代表者 代表取締役社長 横田 幸史朗

設立 1964年
資本金 3,000万円
従業員数 109人



ダイバーシティ・ネイティブな人材活躍の環境

女性が安定して活躍できるように、産体・育休明けの就業時間を個別に調整。出産を期に連隔地に転出した従業員にはリモートワーク復帰の提案をするなど、一人ひとりのライフスタイルに対応した働き方を実行。また、65歳を過ぎても継続雇用を可能とするなど高い定着率を維持し、障がい者の新卒雇用も積極的に行っている。さまざまな立場の人的資源や山間地特有の地域資源に着目・価値化することで多様性を大前提とした経営を行い、顧客との強固な信頼関係のみならず、地域や行政とも積極的な連携を図る。



若手の縫製未経験者からベテランまで

地域を巻き込んだ働き方改革と社内兼業スキームがもたらす好循環

同社が立地する山間地の住みやすさや魅力を発信し、域外から人を呼び込む地域活性化プロジェクト「OPEN INABU」を主宰。週3日は事業所で、土日は同地区でアウトドアガイドとして働き、残りの平日を休む就労スタイルを提案。若者の採用実績を生むなど、地域を巻き込んだ働き方改革を実行。従業員のやりがいと責任感の醸成にも繋がり、本業を続けながら新規事業を立ち上げる貴重な経験が、社内に新しい働き方や新規事業、カイゼン提案の考え方をもち込む原動力となるなど、好循環を生み出している。



週2日のツアーガイドをする働き方

個人スキルと小集団活動による従業員のレベルアップ

技能伝授の場「トヨタケ道場」を設置し、新人のトレーニングやベテラン工の再教育、社外人材とのワークショップを通じて、日本の「ものづくり」の強みを継承。裁断・縫製の現場は10代～60代まで幅広い世代の女性が活躍。各ラインに女性リーダーを登用し、自ら統計的な手法を勉強し、問題解決を実践、より高い品質へと繋げている。これら小集団活動を通して業務に取り込み、社内外での発表や表彰制度の設置も加え、「やりがい」と「やりやすさ」、さらに、全従業員のレベルアップが図られている。



トヨタケ道場のインターンの様子

人材育成

ものづくり